

附録 6 数量化理論 III 類の簡易な説明

日本人大学生に対して、同世代の他者が有する特徴の意識と、特定の特徴を有する他者に対してどのような感情を抱くかを、数量化理論Ⅲ類によって分析した結果を第 55 図に示す。回答者は、自分との比較基準 (e.g., 学年が上、ルックスがいい; 第 12 表) に対して、それぞれの特徴を有する者に対して抱く感情 (e.g., 嫉妬を感じる、礼儀に気を使う; 第 13 表) を選択した。

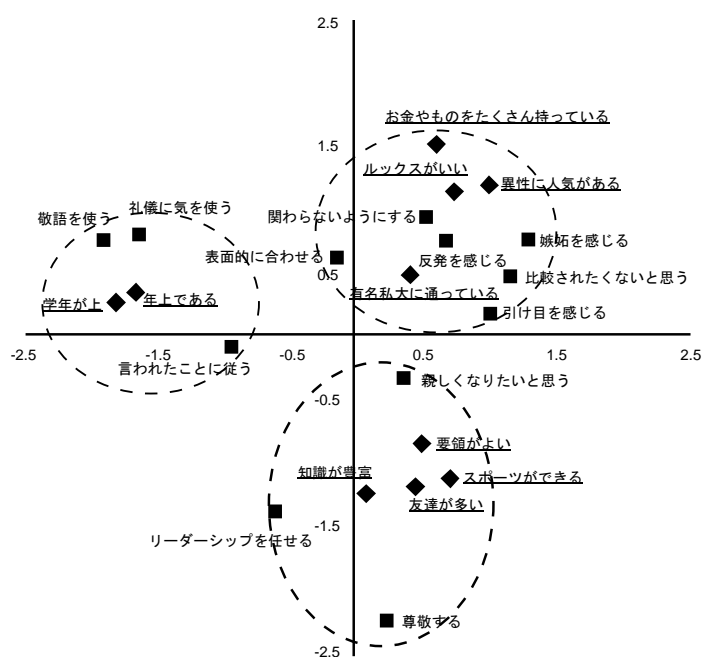
第 12 表 自分との比較基準

ルックスが良い
知識が豊富
少し年上
お金や物をたくさん持っている
学年が上
異性に人気
有名私大に通っている
友達が多い
要領が良い
スポーツができる

第 13 表 喚起される感情一覧

敬語を使う
礼儀に気を使う
言われたことに従う
嫉妬を感じる
リーダーシップを任せる
関わらないようにする
引け目を感じる
表面的に合わせる
比較されたくないと思う
尊敬する
親しくなりたいと思う

第 55 図に見られるように、日本人大学生が意識する同世代他者の特徴と、意識された他者の特徴によって喚起される感情との関係は 3 つの領域に分類することができる。



Note. ◆下線は比較基準を、■は喚起される感情をそれぞれ示す

第 55 図 数量化理論Ⅲ類による分析のプロット図サンプル

(出典：新井・松井、2003 を元に編集)

第 55 図に見られるように、類似した特徴をもつ項目が互いの近隣にプロットされる。仮に、第 55 図の上部分にある円を領域 1 として考える。領域 1 には、「ルックスがいい」や、「異性に人気がある」など、外見や社交性に関連する項目が集まった。同時に、そのような特徴をもつ他者に対して抱く感情として、「反発を感じる」、「関わらないようにする」などの項目が集まった。これらの結果を解釈すると、次のような傾向が示唆される。

まず、日本人大学生が同世代の他者の特徴を意識する際、大きく分けて 3 つの点に注意している。そのうちの一つに、「外見・社交性」というものが考えられる。また、「外見・社交性」で自分よりも優れていると感じられる同世代の他者に対しては、反発や嫉妬、関係への消極性など、人間関係上ネガティブな感情が喚起される。

数量化理論Ⅲ類はこのように、類似した項目や、関連する要因（上の例の場合は喚起される感情）との関係を、それぞれの位置関係から概観することを可能にする手法である。

上の例で「他者の特徴」は、「キーワード」に相当し、「喚起される感情」は「研究機関」や「活動種別」に相当する。